

農作物技術情報 第8号 花き

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 今年の栽培を振り返り、翌年の作付計画を立てましょう。
- ◆ りんどう 残茎処理などの秋じまい管理を遅れないよう行いましょう。
- ◆ 小 ぎ く 計画的な伏せ込み作業により、健全な親株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

極晩生品種の出荷が終盤となっており、間もなく出荷終了となります。病虫害の発生は少なくなっています。

2 栽培管理

(1) 茎葉の刈払い

刃物を使っての刈払い作業を行う場合は、ウイルス病の感染を防ぐため、完全に枯れてから行います。極晩生品種では、冬期まで株元の茎が枯れずに残る場合があります。その際、無理に株元から折り取ると株を傷める場合がありますので、枯れた部分までを折り取って翌春に残りの茎を除去します（写真1）。

また、枯れ茎は、ハダニ類やリンドウホソハマキの越冬場所になります（写真2、3）。刈払った茎葉は、ほ場内に放置せず、必ずほ場外で処分します。



写真1
茎葉の刈払い例（極晩生品種）



写真2
枯れ茎内で越冬するリンドウ
ホソハマキの幼虫



写真3
枯れ茎内で越冬するハダニ類

(2) 除草

秋の除草により翌春の雑草の発生量が減少します。また、除草は害虫の越冬場所を減らすことにもつながりますので、ほ場の周囲も含めた除草を行います。

(3) 株の保護

積雪の少ない地域では、新植ほ場でまだ株が小さい場合や極早生種など根張りの弱い品種に対し、越冬芽の凍結防止や浮き上がりによる塊茎の露出防止を兼ねて土寄せや芽土をします。マルチを温存しているほ場では、準備した無病の土を越冬芽が隠れる程度に被せる芽土を行います（写真4）。



写真4 芽土の例

(4) 排水対策

雪解け水がほ場内にたまらないように排水路を設けます。特に、ハウス栽培では雪解け水がハウス内に浸み込まないように、周囲の排水溝の設置やサイドのビニールや畦畔板の埋め込みにより対策します（写真5）。



写真5 ハウス周囲の排水溝の設置例

3 株更新

安定した収量を確保するためには、計画的なほ場更新を行い健全な株を維持することが重要です。今年のほ場や品種ごとの生育状況や単収を振り返り、株養成期間を考慮しながら株更新を進めます。

近年、気温が高く、盆需要期向けの早生品種では、開花時期が早まる年や高温障害が発生する年が多くなっています。株更新する際は、各地域での品種ごとの開花時期を確認し、**盆需要期に開花する品種や高温障害が少ない品種への転換**を図ります。また、気象条件による開花時期の変動も考慮し、複数の品種を配置するようにします。

来年新植を予定しているほ場では、秋のうちにたい肥3～4 t／10 aを施用し、粗起こしや明きよの整備を行います（写真6）。また、土壌診断を行い、施肥設計の準備をします。



写真6 水田転換畑の明きよの設置例

小ぎく

1 生育概況

10 月咲き品種の出荷が終盤となっています。りんどうと同様に、病害虫の発生は少なくなっています。また、親株の伏せ込み作業が始まっています。

2 栽培管理

(1) 伏せ込み

親株の伏せ込み作業は、11 月上旬頃までに行います（写真 7）。株を掘り上げる際、病害虫がないことを必ず確認します。特に、本畑で白さび病やべと病、半身萎ちょう病が発生した場合は、発病株を伏せ込み床に持ち込まないよう注意します。



写真 7 伏せ込み後の親株

(2) 伏せ込み後の管理

活着までは土壤水分を確保し、夜間低温が予想される場合はトンネルやべたがけで保温します。活着後は、日中ハウスを開放し、夜間は凍らない程度の温度管理とします。かん水は伏せ込み直後に十分に行い、活着後は、土の表面が乾いたらかん水する程度に控え、極端な乾湿条件とならないようにします。

(3) 台刈り

秋冬期高温で経過した場合、株やかき芽伏せ込みでは年内に茎葉が繁茂することがあります。その場合は、12 月中旬頃に株の若返りと病害虫の除去のため、地上部を刈り込みます（写真 8）。この時、地下部から出てきた新芽は残すようにします。



写真 8 台刈り後の親株

3 来年の栽培計画

これまでの品種ごとの単収、単価、病害虫の発生状況などを考慮し、来年の栽培計画を立てます。特に、白さび病で毎年苦慮している品種、高温で開花が遅れる品種、例年下葉枯れが発生して出荷ロスが多いほ場では、作付品種の見直しや、ほ場の変更など、積極的な対策を検討します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。